

事業計画書

アフガニスタン国
子ども図書館事業

2006年1月—2010年12月

(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)

アフガニスタン事務所

1. ニーズ・妥当性

アフガニスタンでは、30年近くに渡る戦争のため、子ども用の本・絵本がない。30年程前に、子ども向け雑誌が1年間刊行されたほかは、非営利団体が単発で発行する絵本もしくは雑誌が出版されたのみである。内戦中は治安悪化のため、子ども向けだけでなく大人向けの雑誌・新聞も発行されていない。タリバン時代には、偶像崇拝を禁止とし、絵の類はほとんど見られることなかった。戦争中には、教育の機会がたたれたため、識字率は全体で40%以下ともされ、15歳の女性の識字率に関しては3%以下とも言われる。(Unicef, 2004) 本や活字を読む習慣はなく、せっかく覚えた字を持続することが困難である。(Nancy Dupli, 2005) 子どもの頃から絵本に触れることにより、本に慣れ親しむと同時にアフガニスタンに本を復活させる。

また、宗教上の理由より絵本や本に対して偏見や拒否反応を示す人々も多々いる。図書館事業に社会活動を含ませることにより、より多くの人々に活動への理解を求める。

2. 対象地域

ナンガハール州、ジャララバード市、チャライマラストーン地区

3. 対象者

直接 10人の孤児

子ども図書館に来訪する子ども 200名

間接 ジャララバード市住民 99,000名

3. 実施期間

2006年1月－2010年12月

4. ハンドオーバーする相手

3年間の中でハンドオーバーする予定はない。カウンターパートとして、情報文化局・教育局・厚生労働局と協力して活動を行い、将来のハンドオーバー先を模索する。

ナンガハール州

5. プロジェクト目標

SVA対象地域の戦争にて両親を無くした子ども、貧困など困難な環境にいる子ども、学校に行けない(行っていない)子ども達が図書館を通じて、絵本・本に触れる機会を得、地域に図書館活動が受け入れられる。

指標

- ・ 子ども図書館を訪れる子どもの数
- ・ 子ども図書館を訪れる子どもの数と背景
- ・ 子ども図書館で行われる地域の人々(両親)に対する活動に参加した住民の数

6. 成果

1. 対象地域の両親を無くした子ども、貧困など困難な環境にいる子ども、学校に行けない(行っていない)子ども達達が図書館活動及び絵本／本に触れる機会を得られる。
2. 地域の人々(両親)に、図書館活動及び絵本が理解される。
3. SVAスタッフの能力強化がされる。
4. 情報文化局のスタッフの能力強化がされる。

7. 活動

1-1. 子ども図書館を設置する。

ナンガハール州ジャララバード市チャライマラストーン地区に子ども図書館のための200人ほどが収容できる借家に設置する。SVAスタッフ2名、情報文化局スタッフ2名を配置し、図書館活動(おはなしよみかせ、識字教室、ドラマ、タラナ(詩の朗読))を行う。登録し、親の許可を得た子どもに関しては、指定された絵本・本に限り貸与する。

開館時間:8:30-15:30 (昼 12:00-13:30 までは閉館)

字の読み書きが出来ない子ども、家庭の事情などにより学校に通うことが出来ない子どもを対象に特別識字教室を行う。(登録制)

1-2. 絵本・本1000冊を設置する。

パシュトン語・イラン語・ウルドゥー語などの本 100 冊、SVA 出版本を 500 冊、その他の本 100 冊、貸し出し本 300 冊の計 1000 冊を設置する。

1-3. 孤児で生活が困難な子ども 10 人を保護する。

対象地域において、戦争により両親を亡くした子ども、片親の子どもを図書館別館において保護する。対象年齢は 6 歳から 18 歳とし、生活の場、食事を提供する。公立校への登録を行い、学校へは図書館別館より通う。対象は、現在特定の定住場所がなく、3 食の食事がまともに摂取されていない子ども。保護者の保護能力がなく、孤児が著しく危険な状態にあると判断した場合に保護する。保護後は、保護者との協議、関連省庁との協議などを行い、別途保護先の確保を行う。

1-4. 月毎行事を開催する。

毎月、アフガニスタン国内外の記念日及び文化的活動日にちなんで、行事を開催する。子ども達が、このような行事を通して、図書館活動で得たことを発表する場が得られ、また国内外の問題に関心を持つことを促す。

2-1. 地域の人々(両親)に対して年に 4 回会合を開き、図書館活動の理解を求める。

子ども図書館にて年に 4 回会合の場を設け、地元マリック、有力者、両親などを呼び寄せ、図書館活動に関する理解を求める。

3-1. 海外の SVA 事務所へ派遣する。

1ヶ月弱に渡って、SVA 職員が他国の SVA 事務所の活動を訪問し、自国での活動発展のための能力強化を図る。

3-2. 専門家を招聘する。

図書館活動に関わる専門家を招聘し、SVA 職員及び情報文化局職員の能力強化を図る。

4-1. SVA 内外の研修に情報文化局のスタッフが参加する。

内外研修に SVA 職員、情報文化局のスタッフが参加できるように調整する。

例

ACBAR: ACBAR の中に ARIC という図書館活動を行っている団体がある。ペシャワールには数万冊に及び本を扱った図書館があり、そこで、本の貸し出しの研修を予定している。